第25回

三遠南信サミット

2017 in 遠州

テーマ

250万流域都市圏、自立への喚起
～新ビジョンの策定に向けて～

資料集

平成29年10月30日（月）

会場／オークラアクトシティホテル浜松、アクトシティ浜松コングレスセンター、ホテルクラウンパレス浜松

目　次

1　全体会

パネルディスカッション登壇者プロフィール・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

「新ビジョンの策定状況について」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

2　分科会

（１）「道」　基本方針等（案）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13

（２）「技」　基本方針等（案）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14

（３）「人」　基本方針等（案）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15

（４）「風土」　基本方針等（案）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16

（５）「山・住」　基本方針等（案）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17

3　参考資料

現行の三遠南信地域連携ビジョン概要版（平成 20 年 3 月策定）・・・・・・・・・・・・・ 18

三遠南信エリアマップ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 22

パネルディスカッション資料

テーマ「三遠南信地域の将来像」

パネルディスカッション　登壇者プロフィール（敬称略）

○進行役

池上　重弘　　公立大学法人　静岡文化芸術大学　副学長

北海道大学大学院文学研究科修了。同大助手、静岡文化芸術大学助教授等を経て 2008 年より教授、2017 年より副学長。専門は文化人類学、多文化共生論。文部科学省、総務省等の有識者会議等の委員や、愛知県、静岡県、浜松市、磐田市等の多文化共生に関わる委員を歴任。日本社会の多文化・多民族化に伴う地域の課題を実証的に研究。

○パネリスト

大須賀　正孝　　浜松商工会議所会頭／SENA 副会長

浜松市(旧 浜北市)出身。1971 年浜松協同運送㈱〔現㈱ハマキョウレックス〕を創業、代表取締役社長就任後、2007 年同社 代表取締役会長となる（現在に至る）。2005 年(一社)静岡県トラック協会 会長、2012 年(公社)全日本トラック協会 副会長 等に就任。2013 年 11 月浜松商工会議所 会頭に就任（現在 2 期目）。

山内　秀彦　　NPO 法人地域づくりサポートネット代表理事／三遠南信住民ネットワーク協議会代表世話人

1983 年東京電機大学卒業後、建設会社を経て 1986 年㈱東海まちづくり研究所入所、2008 年同社代表取締役就任。2001 年 NPO 法人地域づくりサポートネットを設立し、現在に至る。「まちづくりシンクタンク会社」として浜松地域の活性化に寄与する傍ら、静岡県内全域、三遠南信地域で市民・企業・行政による『協働のまちづくり』を支援する活動を行っている。

戸田　敏行　　学校法人　愛知大学　教授　三遠南信地域連携研究センター長

1982 年豊橋技術科学大学工学研究科修士課程修了。民間シンクタンクを経て 1985 年㈳東三河地域研究センター主任研究員。同常務理事を経て、2011 年より愛知大学地域政策学部教授。2013 年 4 月より同大学三遠南信地域連携研究センター長、文部科学省共同利用・共同研究拠点（越境地域政策拠点）研究代表を務める。この間、国土審議会専門委員等を歴任、三遠南信地域の各種計画立案に携わる。

勝野　一成　　阿南町長／愛知・長野県境域開発協議会員

1974 年飯田長姫高校（現飯田 OIDE 長姫高）を卒業後、阿南町役場入庁。振興課建設係長などを経て 2007 年副町長に就任。2014 年の町長選挙により、無投票当選。現在に至る。

鈴木　康友　　浜松市長／SENA 会長

1980 年慶應義塾大学法学部を卒業後、松下政経塾に入塾（第 1 期生）し 1985 年に同塾卒塾。ステラプランニング代表取締役を経て、2000 年に衆議院議員に初当選（2 期）。この間、経済産業委員会理事等を歴任。2007 年浜松市長に就任（現在 3 期目）。2011 年から指定都市市長会副会長。

全体会報告資料

「新ビジョンの策定状況について」

新ビジョンの策定状況について

平成29年10月30日
三遠南信地域連携ビジョン推進会議

SENA

1　策定方針

基本的考え方

現行ビジョンを基本とし、地域の状況の変化をふまえた新ビジョンへと更新

計画期間

概ね10年間

範囲

39市町村（遠州9/東三河8/南信州22）

スケジュール

平成30年度の三遠南信サミットで最終報告

2

2　策定体制

SENA　総会・委員会

SENA　拡大委員会

新ビジョン策定委員会

SENA　幹事会

SENA　事務局

○委員長
静岡文化芸術大学　副学長
池上　重弘　氏

○メンバー
SENA構成員、
学識者、住民など

○開催状況
・第1回　平成29年8月2日
・第2回　平成29年9月11日

3

3　三遠南信地域のポテンシャル

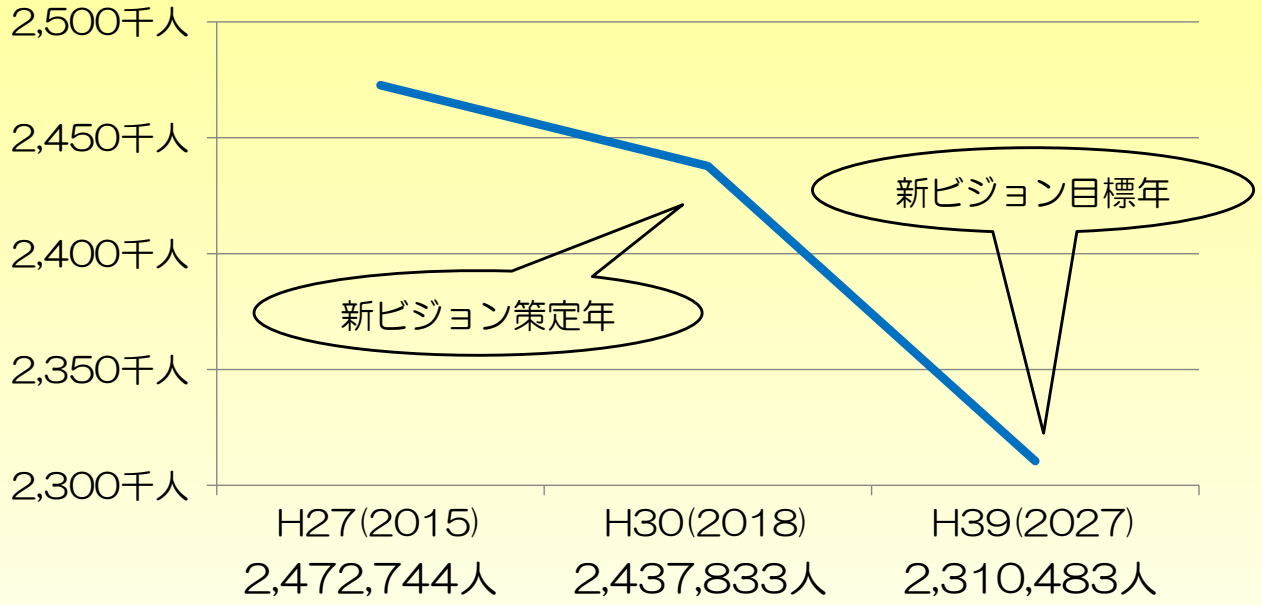
○規模

指標	都道府県順位	規模
人口	14位	2,472,744人
事業所数	15位	116,682事業所
農業生産額	7位	3,142億円
製造品出荷額等	6位	140,504億円
年間商品販売額	17位	52,883億円

※人口　：平成27年国勢調査
事業所数　：平成26年経済センサス-基礎調査-
農業産出額　：平成27年生産農業所得統計
製造品出荷額等：平成26年工業統計調査
年間商品販売額：平成24年経済センサス-活動調査-

4

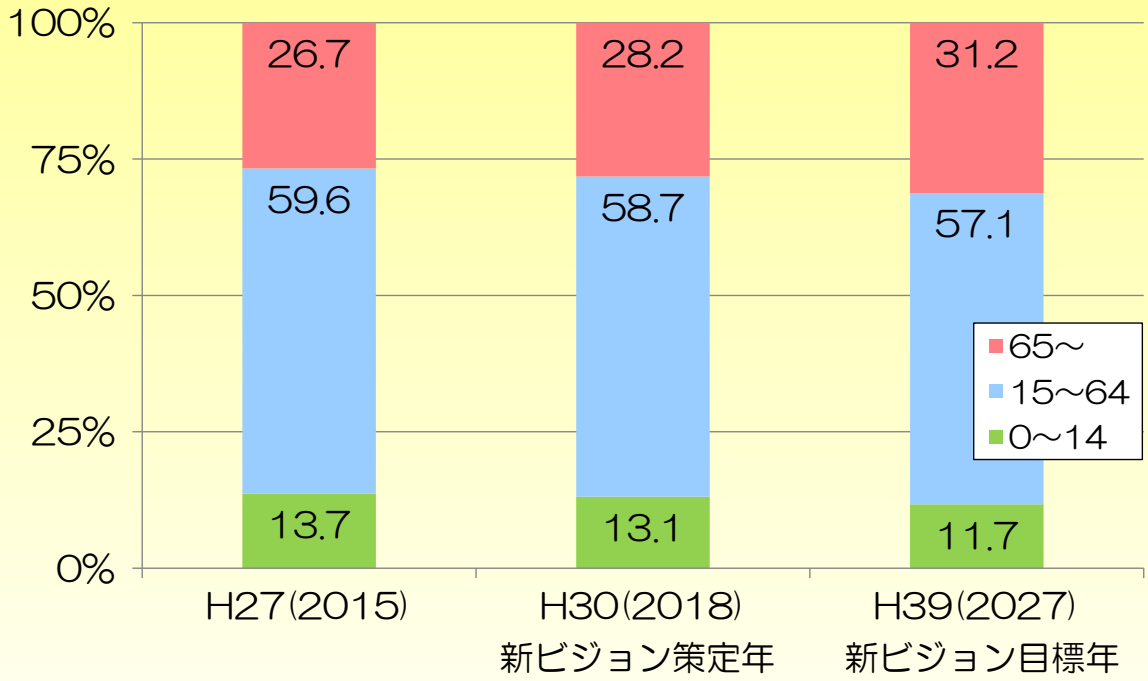
4　人口推計（総人口）



※人口　H27　　：H27国勢調査
　　H30、H39：「社会保障・人口問題研究所」の人口推計値を
　　もとに、算出。

5

4　人口推計（年齢層割合）



※人口　H27　　：H27国勢調査
　　H30、H39：「社会保障・人口問題研究所」の人口推計値を
　　もとに、算出。

6

５　新ビジョンの目的

（1）交通基盤整備の進展に伴う交流・連携活動の深化

（2）産業構造の転換期を先取りする産業創造力の強化

（3）三遠南信地域特有の地域資源の活用による交流人口の拡大

（4）流域住民が共生する県境を越えた広域生活圏の形成

（5）三遠南信地域の持続的発展を支える人づくり

7

６　新ビジョンのテーマ

三遠南信流域都市圏の創生

～日本の県境連携先進モデル～

8

7　新ビジョンが目指す地域像

（1）	大都市圏・世界と結ばれる広域連携都市圏の形成
（2）	中部圏での中核的都市圏の形成
（3）	流域循環圏の形成

9

8　新ビジョンの基本方針（案）

道	中部圏の中核的都市圏となる地域基盤の形成
技	革新を取り込む産業創造圏の形成
風土	塩の道文化創造圏の形成
山・住	安全安心な広域生活圏の形成
人	地域の持続的発展に向けた人材集積地の形成

10

http://www.sena-vision.jp/

三遠南信地域連携ビジョン推進会議

（SENA：**S**an-**E**n-**N**anshin-**A**rea-Relationship-Vision-Progressive-Conference）

11

分科会資料

「道」　基本方針等（案）

「技」　基本方針等（案）

「人」　基本方針等（案）

「風土」基本方針等（案）

「山・住」基本方針等（案）

（道）

基本方針１　　中部圏の中核的都市圏となる地域基盤の形成

圏域内外の人・もの・情報の交流を一層進めることで、中部圏の中核的都市圏となる地域基盤の形成を目指す。

推進方針１　人とものの交流促進

地域内の基盤整備と、圏域内外の人とものの交流を促進し、中核的都市圏となる地域基盤の形成を図る。

主要施策①　地域基盤となる広域ネットワークの整備

【想定される事業】
・三遠南信自動車道の整備促進
・浜松三ヶ日・豊橋道路の早期着工の促進
・国道１号、151 号、152 号、153 号、東三河縦貫道の整備促進　　など

主要施策②　広域ネットワークの効率的な利用促進

【想定される事業】
・リニア中央新幹線と、既存交通ネットワークの相互利活用の促進
・三遠南信自動車道、豊橋・浜松環状道路などの利活用の促進
・港湾、空港、高速道路のネットワークによる物流効率化
・広域的な交通計画の策定　　など

推進方針２　情報の交流促進

県境や、中山間地域、内陸、太平洋沿岸の地域を越えた情報の共有を進め、中核的都市圏として情報の交流促進を図る。

主要施策①　県境を越える情報共有化の推進

【想定される事業】
・TV、ラジオ、新聞などのメディアと連携した三遠南信地域情報の発信
・SNS、広報紙を活用した三遠南信地域情報の共有化　　など

主要施策②　情報通信技術の高度化に伴う情報基盤の整備

【想定される事業】
・無料 Wi-Fi のエリア拡大
・テレビ会議システムの確立　　など

（技）

基本方針２　　革新を取り込む産業創造圏の形成

圏域内の産学官が連携し、既存産業の活力増進を図りつつ、産業構造の転換期を先取りすることで産業創造力を強化し、革新を取り込む産業創造圏の形成を目指す。

推進方針１　既存産業の活力増進

官民の境を越えた人材・労働力の育成・確保と、県境を越えた広域的な産業連携活動を通じて、地域内の既存産業の継承と活力の増進を図る。

主要施策①　人材・労働力の確保・育成

【想定される事業】
・地域外からの人材の誘致
・地域内人材の定着強化　　など

主要施策②　広域的な産業連携活動の推進

【想定される事業】
・三遠南信地域内・外での企業連携の強化
・農林水産業の連携活動の促進
・TOKAIVISION を意識した東海地域での産業連携の強化
・金融機関連携の促進　　など

推進方針２　産業創造力の強化

特徴ある産業クラスターの形成や技術革新の先取り、起業家支援による新産業の創出を通じて、産業創造力の強化を図る。

主要施策①　企業誘致と特徴ある産業クラスターの形成

【想定される事業】
・地域で連携した企業の誘致
・特徴ある産業クラスターづくりの推進　　など

主要施策②　技術革新に対応した新産業の創出

【想定される事業】
・新産業の創出に向けた産学官の連携強化
・ベンチャー企業等への広域的な支援体制の整備
・新技術を保有する企業等の誘致　　など

主要施策③　起業家支援とソーシャルビジネスの育成

【想定される事業】
・起業家のネットワーク形成や支援、育成
・ソーシャルビジネスの育成　　など

（人）

基本方針５　　地域の持続的発展に向けた人材集積地の形成

次代を担う人材の育成や確保、多様な文化が共生する社会の形成を通じて、地域の持続的発展に向けた人材集積地の形成を目指す。

推進方針１　次代を担う人材の育成・確保

学生や労働者の人材育成や、情報の共有化を通じて、地域の次代を担う人材の育成・確保を図る。

主要施策①　学生や労働者のスキルアップを目指した人材育成

【想定される事業】
・義務教育、高等教育の交流機会の創出
・企業と大学の連携による就業者等の知識や技術の養成　　など

主要施策②　三遠南信地域に関する知識・情報の共有

【想定される事業】
・各自治体に関する図書の共有化
・各自治体に関する情報のデータベース化　　など

主要施策③　産業技術や文化財継承のための人材の確保

【想定される事業】
・地域外からの人材の誘致
・地域内人材の定着強化
・地域おこし協力隊の交流機会の創出
・伝統芸能への学生の参加促進
・保存団体と企業との相互協力　　など

推進方針２　多文化共生社会の形成

多様な文化・価値観を持つ人々が輝いて生活し、また働ける環境を整備することで、多文化共生社会の形成を図る。

主要施策①　だれもが輝く地域づくり

【想定される事業】
・外国人学校への支援
・LGBT パートナーシップ制度の導入　　など

主要施策②　だれもが働ける雇用機会の創出

【想定される事業】
・女性や中高年層の就業・活躍機会の増進　　など

（風土）

基本方針３　　塩の道文化創造圏の形成

三遠南信地域特有の地域資源の新たな価値づくりに取り組み、保存・活用・発信を行うことで、塩の道文化創造圏の形成を目指す。

推進方針１　地域資源を活かした広域観光の推進

地域資源を活用した広域観光を推進するプロモーションやネットワークづくりにより、広域観光の推進を図る。

主要施策①　広域観光プロモーションの推進

【想定される事業】
・「日本遺産」認定に向けた、連携活動の実施
・JR 飯田線、天竜浜名湖鉄道線、路線バスを活用した広域観光プロモーションの実施
・プロモーションに活用する広域観光ルートの策定
・「おんな城主　直虎」放映終了後の継続した観光プロモーションの実施　　など

主要施策②　広域観光を推進するネットワークづくり

【想定される事業】
・道の駅、SA・PA 等の観光ネットワークづくり
・地域内での軽トラ市の連携ネットワークづくり
・リニア中央新幹線の長野県駅（飯田市内）の活用　　など

推進方針２　地域資源の保存と継承

三遠南信地域特有の地域資源の有効利用するための塩の道文化の啓発や、保存継承することで、塩の道文化創造圏の地域資源の再認識と継承を図る。

主要施策①　塩の道文化の啓発と人材の確保・育成

【想定される事業】
・地域おこし協力隊の交流機会の創出
・伝統芸能への若者の参加促進
・保存団体と企業との相互協力　　など

主要施策②　歴史・文化・自然資源の保全

【想定される事業】
・地域資源の発掘や情報の発信　　など

（山・住）

基本方針４　　安全安心な広域生活圏の形成

資源の循環利用を流域圏で進めながら、中山間地域も含めた圏域全体の生活環境の維持と向上により、安全安心な広域生活圏の形成を目指す。

推進方針１　流域定住推進モデルの形成

上流域と下流域の双方の長所を生かした、居住、健康、防災などの生活環境を整備し、流域定住モデルの形成を図る。

主要施策①　移住・定住事業の広域的連携の推進

【想定される事業】
・首都圏への移住・定住情報発信や婚活事業の共同実施
・上流域と下流域での二地域居住の推進
・飯田線等、中山間地域の交通ネットワークの整備　　など

主要施策②　広域的な健康づくり事業の推進

【想定される事業】
・健康・医療・介護等の核的施設の共同利用
・緊急救急医療の広域連携の推進　　など

主要施策③　広域的な防災体制の充実化

【想定される事業】
・三遠南信災害時相互応援協定に基づいた具体的活動の検討
・三遠南信地域外との防災連携　　など

主要施策④　公共施設等の有効的な広域利用

【想定される事業】
・廃校、遊休公共施設の広域利用体制の整備　　など

推進方針２　自然資源の循環利用の推進

森林資源等の自然資源を広域的に利用し、中山間地域も含めた圏域全体での循環利用の推進を図る。

主要施策①　流域自然資源の広域的な有効利用

【想定される事業】
・農林業の有効的な活用
・再生エネルギー開発事業の推進
・地域おこし協力隊の交流機会の創出　　など

主要施策②　環境保全活動の推進

【想定される事業】
・三遠南信地域の環境保全・保護団体等の情報交換　　など

参　考　資　料

現行の三遠南信地域連携ビジョン概要版　平成 20 年 3 月策定

－世界につながる日本の中央回廊－

三遠南信250万流域都市圏の創造

三遠南信地域は、愛知県東三河地域、静岡県遠州地域、長野県南信州地域からなる 3 県の県境地域です。人口 230 万人、豊かな経済資源や多様な自然環境、特色ある歴史・文化は、都道府県にも匹敵する大きなポテンシャルを有しています。近年、市町村合併や広域交通ネットワークの整備による地域構造の変化、また、道州制や国土形成計画など国の地域づくり制度の検討が進められる中、地域住民をはじめ、大学、経済界、行政など圏域の発展を願う様々な関係者が力を合わせ、**「三遠南信地域連携ビジョン」**を策定しました。

「三遠南信 250 万流域都市圏の創造－世界につながる日本の中央回廊－」をテーマとし、三遠南信に対する思いと活動のベクトルを一致させることにより、相乗効果を発揮し、地域の振興発展を加速させていくことを期待しています。

■　三遠南信地域連携ビジョンを策定するに当たって以下の 5 つの目的があります。

○道州制や国土形成計画など県境を越える地域づくり制度へのアピール
○経済活動のグローバル化に対応した県境を越える産業競争力の強化
○市町村合併による地域構造の変化に対応した広域行政の推進
○地域連携活動の相乗効果の発揮
○県境を越えた社会基盤を活かした地域づくり

■　目標期間

三遠南信地域連携ビジョンの目標期間は、**概ね 10 年間**とし、三遠南信地域の目指すべき将来像と連携事業の方針を定めました。

■　策定体制

○三遠南信サミット

三遠南信地域の市町村長や議会、経済団体の代表、地域住民、国、県の関係機関などが一堂に集まるこの場で、三遠南信地域連携ビジョンを審議し、決定しました。

○三遠南信地域連携ビジョン検討委員会

三遠南信サミットから委嘱を受けた地域住民や大学、経済界、行政の代表で組織し、オブザーバーである国、県の意見を反映しながら、検討案を策定し、三遠南信サミットへ提案しました。

○幹事会

三遠南信地域の行政、経済界、国、県の実務者レベルで組織し、検討委員会の審議に向け、関係間で調整しました。

現行の三遠南信地域連携ビジョン概要版　平成 20 年 3 月策定

■ ポテンシャルから導き出される 5 つの課題

三遠南信地域のポテンシャルから、地域連携ビジョンを策定する上での課題として、次の 5 点を挙げました。

○ 中部圏における**「自立した世界的都市圏」**としての機能強化
○ グローバル化や産業構造に変化に対応した**「国際的な産業競争力」**の強化
○ 自然や歴史に育まれた地域文化を活かした**「地域アイデンティティ」**の確立
○ 天竜川・豊川流域圏において自然資源、人的資源、産業資源など補完と連携による**「流域循環圏」**の構築
○ 道州制を見据えた**「県境を越える広域的な地域連携政策機能」**の構築

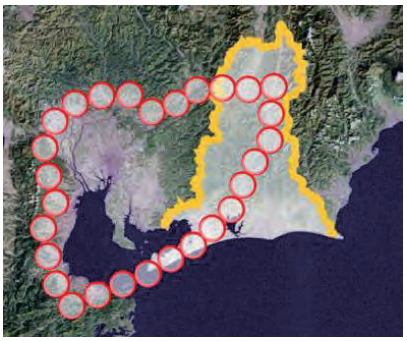
■ 三遠南信地域連携ビジョンのテーマ

三遠南信 250 万流域都市圏の創造　ー世界につながる日本の中央回廊ー

■ 目指すべき地域像

① 日本の中央回廊の形成

太平洋側と日本海側の両地域を東西日本の中心で結びます。



② 大伊勢湾環状地域を構成する中核的都市圏の形成

伊勢湾を中心に産業や文化等の多様なネットワークを構築します。

③ 流域循環圏の形成

上下流域が環境や経済をはじめ、広範な分野で有機的にネットワークする「流域循環圏」を構築します。

■ ゾーニング

三遠南信地域を東名高速道路、第二東名高速道路などを境界として、3 つのエリアにゾーニングし、整備方針を掲げました。

①既存集積ゾーン

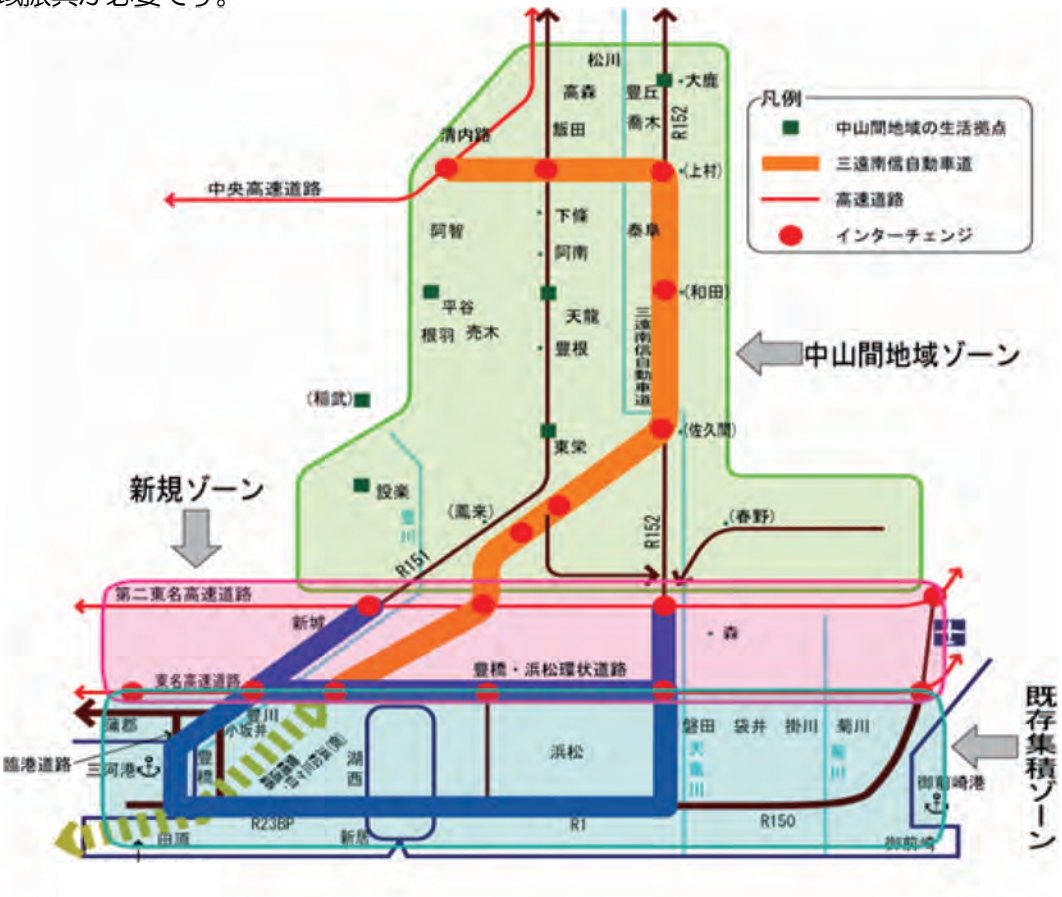
三遠南信地域南部の JR 東海道線、東名高速道路に沿った地域は、特色をもった都市が連続しており、高度な都市機能が集積しています。広域幹線道路として、東名高速道路や国道 1 号の東西幹線が地域を貫き、圏域の東西には三河港や御前崎港の国際港湾を擁しています。政令指定都市・浜松と中核市・豊橋とを広域交通網や情報網でより緊密に結びつけ、圏域の核として一体的な経済・文化圏を形成することにより、圏域全体の発展を牽引します。

②新規ゾーン

東名高速道路と第二東名高速道路に挟まれた地域で、住居系の郊外市街地と都市近郊農業地帯が混在する地域です。今後は、第二東名高速道路の開通に伴い、インターチェンジ周辺等への新たな産業集積が期待されます。浜名湖や地域の森林などの自然環境との調和を保ちつつ、バランスのとれた土地利用が必要です。

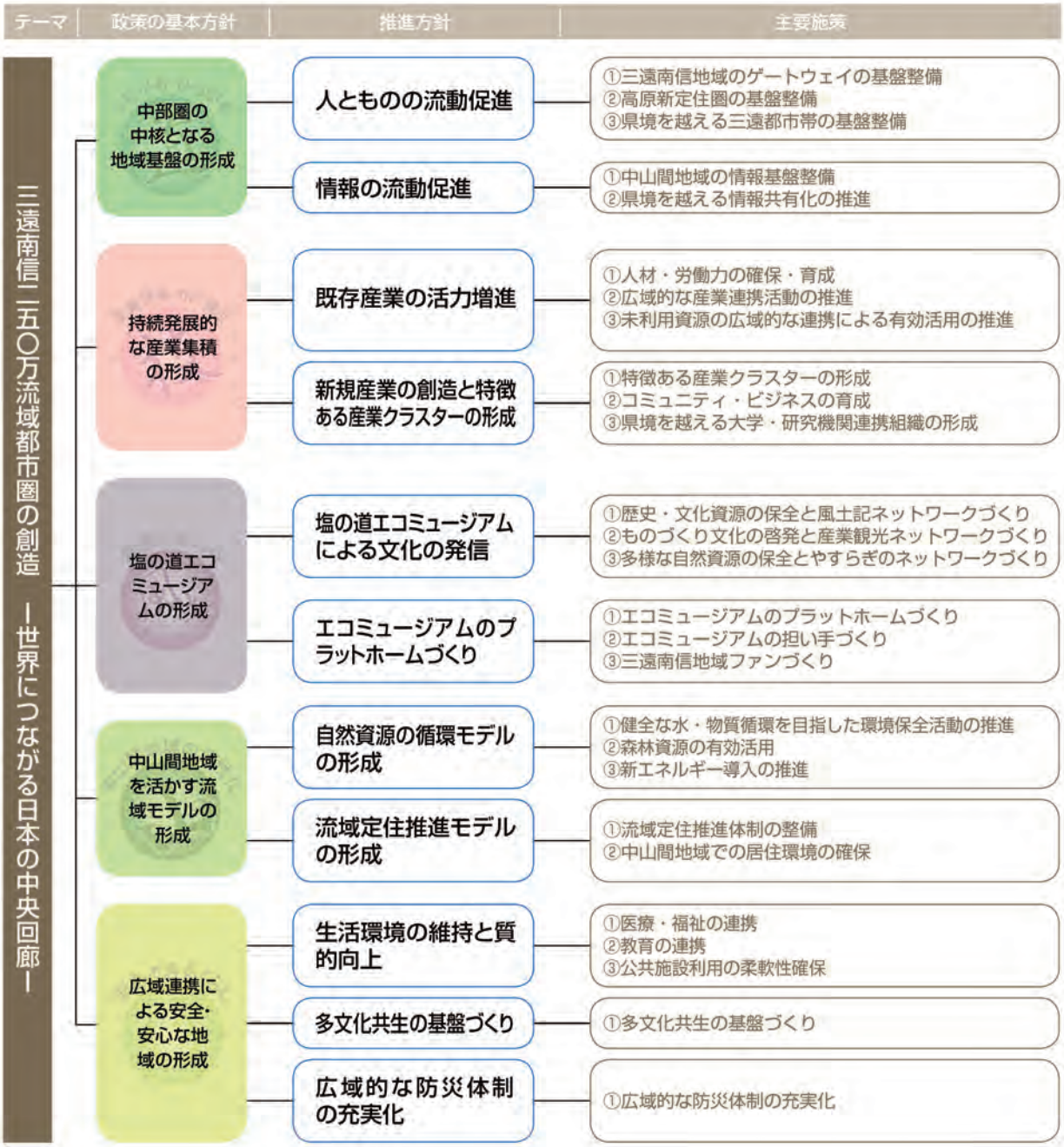
③中山間地域ゾーン

圏域北部の中山間地域は、過疎化・高齢化が進んでいる地域です。優れた自然環境の保全を基調とし、ライフスタイルの多様化に対応した交流人口の拡大を進めます。三遠南信自動車道の整備により、特色ある地域資源を活かすとともに、新規ゾーンや既存集積ゾーンとの活発な交流による地域振興が必要です。



■ 連携事業の施策体系

三遠南信地域の目指すべき地域像を踏まえたテーマを達成していくため、5 つの政策の基本方針を設けました。



辰野町
箕輪町
南箕輪村
伊那市
宮田村
駒ヶ根市
飯島町
中川村
松川町
高森町
大鹿村
豊丘村
喬木村
阿智村
飯田市
下條村
泰阜村
平谷村
阿南町
売木村
天龍村
根羽村
豊根村
設楽町
東栄町
浜松市
新城市
森町
蒲郡市
豊川市
掛川市
豊橋市
磐田市
袋井市
菊川市
牧之原市
湖西市
御前崎市
田原市

三遠南信地域連携ビジョン推進会議（SENA）
浜松市中区元城町 103－2
浜松市企画調整部企画課内